

表紙で解説！ 忙しい人のための救急蘇生



表紙の中心を走るギザギザとした線は「突然心停止となった人が救急蘇生により回復するまで」の心電図の変化です。

左側のギザギザとした線(①)は心室細動という心臓のけいれんで、黄色いイナズママークの近くの大きな山(②)はAEDによる電気ショックを示しています。「電気ショックもしたし、これでひと安心！」……かと思いきや、なんだかだらりとした線(③)になってしまいました。というのも、電気ショックで「心室細動」と呼ばれる心臓の筋肉の細かい震えを取り除くことができても多くの場合、心臓がポンプとして機能しだすまでに時間がかかります。この間も胸骨圧迫を行い、ダメージを受けた心臓に血液を送り続けることで、正常な拍動(④)を取り戻すことができるのです。

このように、胸骨圧迫とAEDによる電気ショックの2つを組み合わせることによって効果が高まるため、胸骨圧迫とAEDはいわば「車の両輪」の関係にあると言えます。

もし、心停止で人が倒れた場面に遭遇して、どうしたらよいかわからなくなってしまったら、この本の表紙を思い出してください。

まず、イラストのように「119番通報・AED・胸骨圧迫」を。

そして、ショックのあとも反応や呼吸が戻るまで、通信指令員やAEDの指示に従いながら胸骨圧迫を続けましょう！